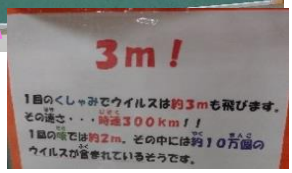
保健だより

佐賀工業高等学校・定時制
保健厚生部
令和元年１１月１５日

みなさんお元気ですか？
朝夕はめっきり冷え込んできました。
日中は上着無しでも過ごせますが、登下校時は風が冷たく気温も下がります。一雨降るごとに寒さが増し、本格的な寒さはこれからです。
体調管理最優先を意識し、睡眠、栄養、丁寧な手洗い、鼻呼吸、のどの乾燥を防ぐ水分補給、歯磨き衣服調節等を心がけ、感染症予防に努めましょう。



＜保健室前の掲示物です＞

今年度の歯科検診の結果です。（令和元年11月8日現在）

☆ むし歯もなく他の所見なしの素晴らしい人　9人
（1年 Iyさん、Nmさん）
（2年 Esさん、Mhさん、Ydさん）
（3年 Nhさん、Isさん）
（4年 Yhさん、Kmさん）
☆ 治療が終了している人・・・全校で７人（20％）

＜口の中が心配な人は下記のとおりです。＞

★ むし歯がある人・・・全校で16人（45．7％）
★ 『歯肉炎』及び軽い歯肉炎のある人・・・全校で12人（34．3％）
★ 『歯垢付着』軽い歯垢付着のある人・・・全校で12人（34．3％）
★ 治療がまだ済んでない人・・・17人

歯を失うことを想像できますか？
食べたくても食べられなくなることを想像できますか？
歯がなければ食べ物を噛むことができず、栄養がとれません。自分の好物も美味しい食べ物も、歯で噛むことができなくなるかもしれないのです。
話をする時や笑う時に、白い歯を出せないことを想像できますか？
想像してください。自分の口の中を・・・。
イメージしてください。
自分の未来を・・・
右の写真は、昨年の歯科講話で、学校歯科医の駒井先生よりクイズがなされた時の写真です。
歯を失えば若さも体力も全身の健康も失います。
だから早期治療はとても大切です。

思い出してください。
二人の歯を観察してください。
二人の関係は双子。年齢は同じ。

☆ がんについてちょっと考えましょう。Part 3

＜佐賀新聞ニュース記事の紹介＞ 知っていましたか？佐賀県は**肝臓がん死亡率がワースト2.**

佐賀県内の肝がん死亡率、20 年ぶりに全国ワースト脱却　肝疾患対策奏功

10/17 8:00

佐賀県の肝がん死亡率が、人口10万人当たりの2018年速報値で31・4となり、20年ぶりに全国ワーストを脱却したことが厚生労働省の人口動態調査で分かった。全国平均は20・9で、佐賀県は依然としてワースト水準が続いているものの、県は医療機関などとの連携強化や肝炎ウイルス検査の個人費用の県負担など、肝疾患対策が効果を上げつつあるとみている。

佐賀県は1999年から19年連続で全国ワーストで、2004年の49・8がピークだった。18年は31・4で前年より4・0ポイント改善し、和歌山県の32・0を下回ってワースト2位になった。10年前の08年と比べると、14・5ポイント改善している。

県内では肝がん患者の多くをC型、B型肝炎ウイルスキャリアが占めてきた。**自覚症状がないため、検査を受けない人や、陽性であっても放置し肝硬変や肝がんに進行するケースが多いことが課題**になってきた。

県は死亡率低下を目指し、12年に佐賀大学医学部と協定を結び、肝疾患センターを設置。ここを拠点に別の医療機関やかかりつけ医とも連携し、それぞれに在籍する看護師や保健師らを肝炎医療コーディネーターとして養成、ウイルス検査を勧めて患者を掘り起こして治療を働き掛けてきた。

15年10月からは定期検査の費用助成に必要な申請書類を簡素化した。18年度からは県内の企業が多く加入する全国健康保険協会（協会けんぽ）の被保険者の検査で、個人負担を無料にする事業にも取り組んできた。関係者は、こうした複合的な対策がワースト脱却につながったとみている。

県健康増進課は**課題として「ウイルス検査で陽性だった人の精密検査の受診率が依然として低い」**と話す。18年度の受診率も49・1％にとどまっており、**23年度までの「第2次県肝疾患対策推進計画」で受診率を90％以上にする**ことを目指し、取り組みや啓発を強めている。

かつて、がんは不治の病と言われていましたが、現在はがんになっても克服することができるようになってきました。その中でも、できるだけ早いうちにがんを発見し、治療を開始することが望ましいとされています。

がんは、初期のうちは自覚症状がほとんどないため、発見が遅れてしまいがちです。そこで、自覚症状がないうちから定期的にがん検診を受け、早期発見・早期治療につなげることが大切です。